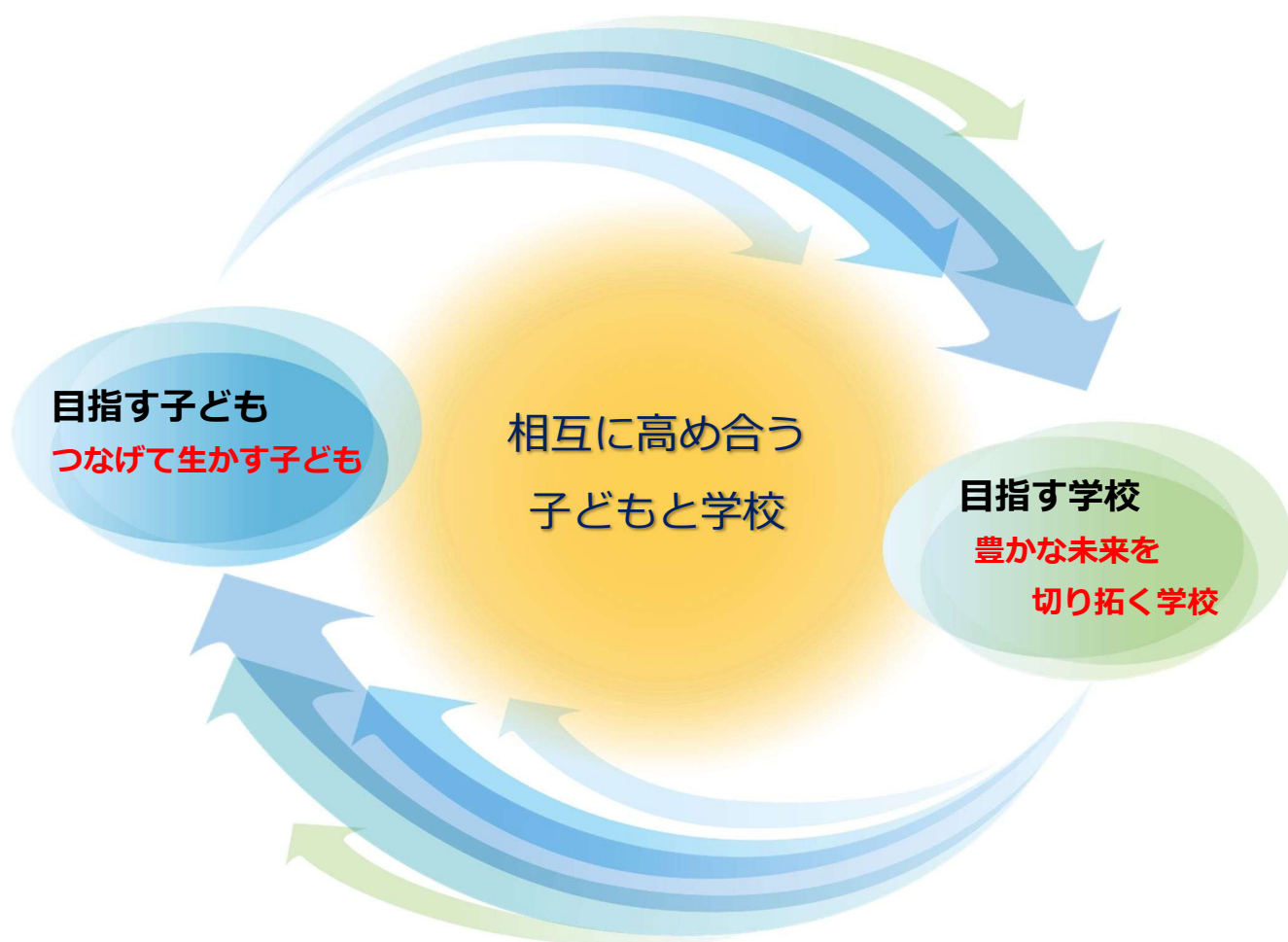


豊田市 学校教育の情報化プラン (2026～2030)



2026 年 3 月
豊田市教育委員会

目 次

1	目指す子ども像・目指す学校の在り方・・・・・・・・・・	1
2	計画の位置づけ・・・・・・・・・・	2
3	成果と課題・・・・・・・・・・	3
4	目指す学習スタイル・・・・・・・・・・	7
5	I C T環境整備について・・・・・・・・・・	8
6	情報化プラン（2026～2030）の計画体系・・・・・・・・	10
7	重点事業・・・・・・・・・・	11
8	基本取組・・・・・・・・・・	13

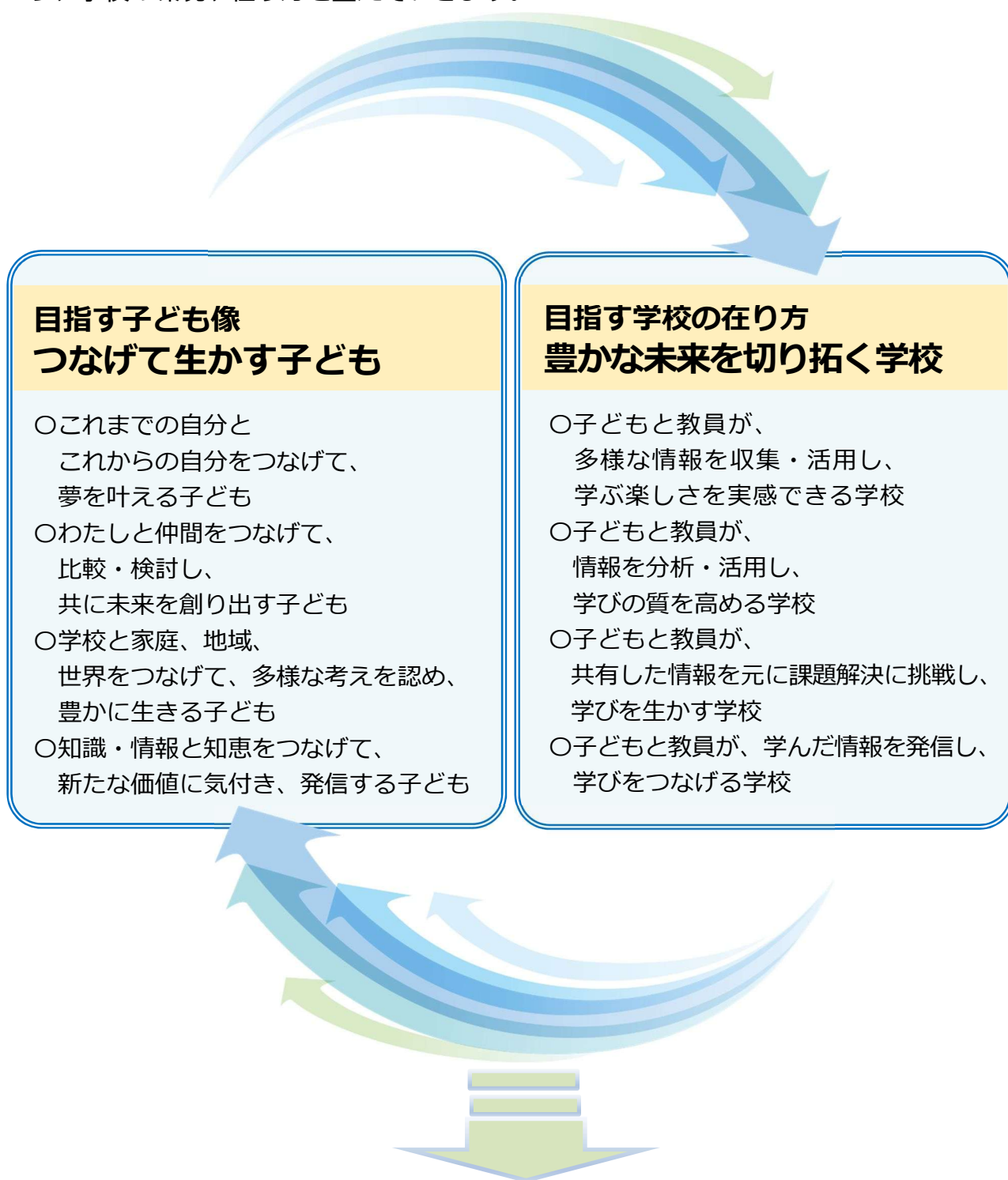
<資料>

【資料①】 情報活用能力指導体系表

【資料②】 12 のやめることリスト

1 目指す子ども像・目指す学校の在り方

- 多様な人々や地域とのつながりの中で、様々な体験や学びを通して、自分らしく豊かな人生を切り拓くことができるよう、子どもの「つなげて生かす力」を育てます。
- 多様な個性や立場の違いを認めあいながら、誰もが安心して学び、育つことができるよう、学校の環境や在り方を整えていきます。



- ◇学校が変わることで子どもが成長し、子どもの成長に合わせて学校の在り方を見直します。
- ◇子どもと学校が相互に高め合う姿を目指します。

2 計画の位置づけ

(1) 国の動向

○中央教育審議会諮問（2024.12）において、顕在化している課題として「デジタル学習基盤の効果的な活用」が挙げられている。その中で、我が国のデジタル人材育成強化は喫緊の課題とされており、「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考え方に立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要があるとの見解が示されている。

(2) 市の動向

○市では、第9次豊田市総合計画（2025～2034）を策定した。「つながり」「チェンジ」「チャレンジ」をキーワードとして豊かなまちづくりを目指し、取組目標として子どもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めることを掲げ、施策として多様な学びに対応した最適な教室環境づくりが示されている。

○総合計画を踏まえ、策定されている学びの大綱及び第5次教育行政計画においては、「ICT機器の活用や教育データのさらなる分析・利活用を通して、個別最適な学び・協働的な学びを推進し、誰一人取り残すことなく、一人ひとりに合った資質・能力を育成する教育の推進」に取り組むことが明記された。

(3) 豊田市学校教育情報化プラン（2026～2030）の策定

○国は、学校におけるICT環境の整備を進めるために、「学校のICT環境整備3か年計画（2025～2027）」（2025.1）を示した。また、ICTを有効に活用した業務改善を進めるために、具体的な方策を示した「次世代校務DXガイドブック」（2025年3月）を公開している。

○これまで、本市は教育の情報化に向けて豊田市学校教育情報化プラン（2021～2025）を策定し、ICTを活用した新しいスタイルでの学習を推進してきた。情報化プラン（2021～2025）の終末にあたり、評価・検証を行う。

○また、国や市の方針を踏まえ、情報活用能力のさらなる育成を目指し、今後5年間の教育の情報化を見通した新たなプラン、豊田市学校教育の情報化プラン（2026～2030）を策定する。



3 成果と課題

○豊田市学校教育の情報化プラン（2021～2025）では、GIGA スクール構想の中で、I C T 環境を整備し、I C T 活用指導力の向上を目指してきた。その成果と課題をまとめる。

<成果>

1 重点事業について

（1）「新しい学習スタイル構築」事業について

- ①研修による教員の I C T 活用指導力の向上
 - ・動画研修の実施、e ラーニングの活用
- ②委員会等を活用した組織的な授業改善の推進
 - ・新しい学びのスタイル推進委員会の取組
- ③学習支援ソフトや個別学習アプリによる新しい学習スタイルの推進
 - ・SKYMENU Cloud、Qubena 等による学習

成果指標①	■ 個別最適な学びのための支援ができていると考える教員の割合			
－出典－ 学校における教育の情報化の実態等に関する調査		2020 豊田市	2020 全国	
	小学校	52.2	66.8	
	中学校	43.3	59.1	
				2024 豊田市 2024 全国
				85.5 ↑ 83.3
				76.0 ↑ 71.9

成果指標②	■ 協働的な学びのための指導・支援ができていると考える教員の割合			
－出典－ 学校における教育の情報化の実態等に関する調査		2020 豊田市	2020 全国	
	小学校	54.4	65.5	
	中学校	52.5	62.3	
				2024 豊田市 2024 全国
				81.5 ↑ 80.2
				79.6 ↑ 75.9

○小学校、中学校ともに、取組の成果が大きく出ている。ICT を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」のための授業づくりができている教員の割合が、大きく増加。目標とした「全国平均」を、大きく上回っている。

（2）「校務のデジタル化の推進」事業について

- ①校務系と学習系のネットワークの統合
 - ・校務系と学習系のデータ移行の効率化
- ②ヘルプデスク機能の強化と合理化
 - ・各種業務や申請のマニュアル作成と運用
- ③学習用タブレットのアプリを活用した校務のデジタル化の推進
 - ・Forms の活用、電子掲示板等の情報共有
 - ・タブレット持ち帰り、家庭との情報共有

成果指標	■ 1 か月当たりの時間外在校等時間		
－出典－ 時間外在校等時間の状況記録		2020 月 45 時間超	2024 月 45 時間超
	小学校	71.1	28.6
	中学校	80.9	42.6

○小学校、中学校ともに、時間外在校等時間は大幅に減少しているものの、目標とした「月 45 時間超の 0%」については、達成できていない。

2 ICT環境整備について

(1) 全国に先駆けてデジタル学習基盤整備完了

- ・高速大容量のネットワーク構築
- ・教育委員会主導によるアカウント管理

(2) 文部科学省のKPIについて

(出典：学校のICT環境整備3か年計画 2025～2027年度)

	大項目	項目	目標	豊田市
1	学校のネットワーク	「当面の推奨帯域」を満たす	100%	達成
2		無線LAN	100%	達成
3	教員の端末等	校務用端末	1人1台	達成
4		指導者用端末	1人1台	達成
5		業務用ディスプレイ	1人1台	—
6		次世代型校務支援システム または総合型校務支援システム	100%	達成
7	学校のニーズに応じたICT支援体制	ICT支援員	4校に1人	△
8		ヘルプデスク	整備	達成
9	教室のICT機器	電子黒板等の大型提示装置	各普通教室 1台	達成
			+ 6台	△

○ICT環境面では、迅速な整備を行い、ネットワーク環境や端末などは充実した状況となっている。

○ICT支援体制については、各校への訪問に加え、電話等による相談や支援の充実や、クラウドを活用した各種申請システムの開発、ICTに関する質問サイト「Qto」の更新を今後も継続して進めていく。また、毎年実施している訪問回数希望調査をもとに、学校の要望に応じて訪問回数を調整する対応も継続して行っていく。

○大型提示装置については、2025年時点で、中学校は全校特別教室に8台ずつの整備が完了している。今後も、児童生徒数の推移を注視しながら、各学校で必要となる台数を導入できるよう、整備を行っていく。

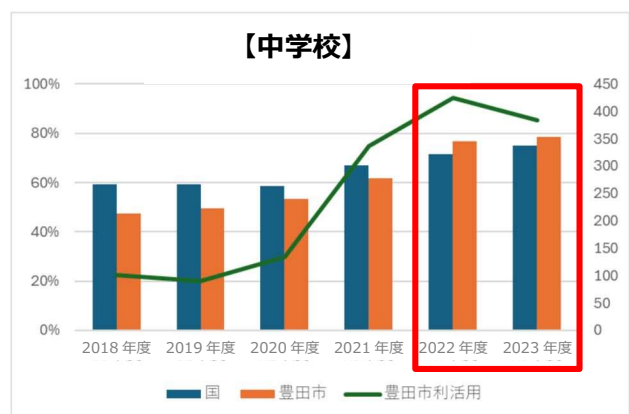
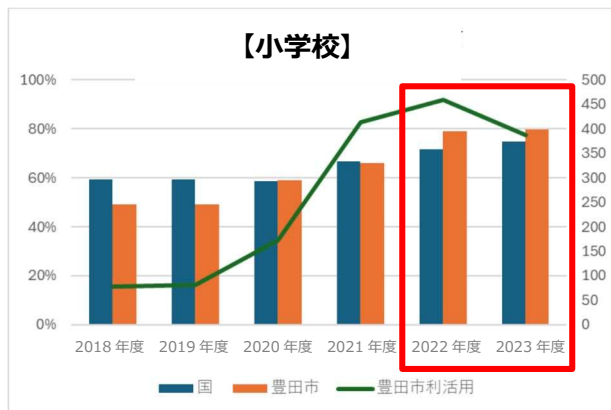
(3) 教員のICT活用指導力

(出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査)

◇「つなげて生かす子ども」の育成に向けて、特に重要と考えられるICT活用指導力

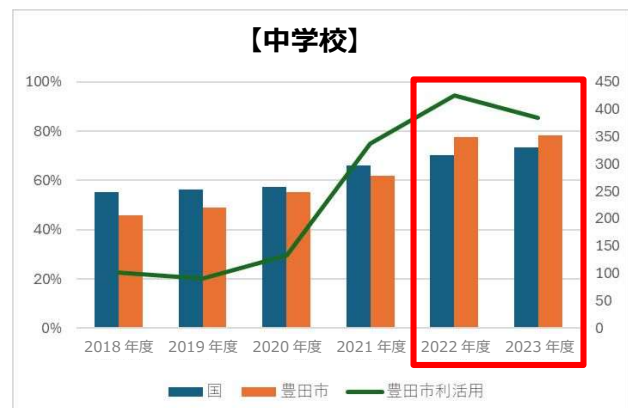
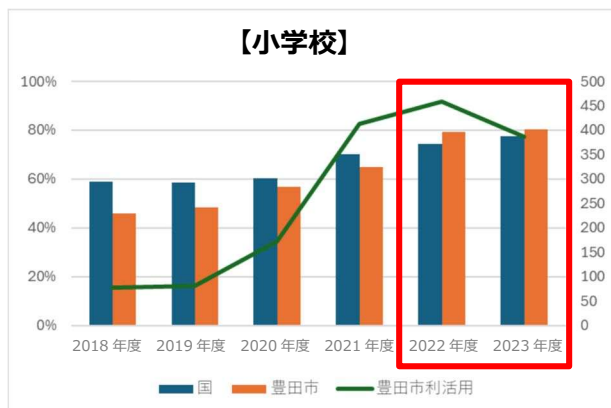
番号 小項目

B4 グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。



番号 小項目

C4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。



○小学校、中学校ともに 2021 年度から 2022 年度にかけて、どの項目も「できる」教員の割合が大きく増加している。学習用タブレット利活用の 1 か月平均時間の推移と比較して検証してみると、活用率が上昇した後に「できる」項目の向上が見られる。

○特に 2021 年度の夏季休業期間より、e ラーニング での SKYMENU Cloud の操作研修を実施してからは、多くの教員が操作を通して活用方法を学ぶことができ、活用の推進につながったと考えられる。

○豊田市におけるネットワーク環境は常に快適で、教職員のアカウントについても整備されており、1 人 1 台端末を活用しやすい環境が整っていたため、スムーズな活用につながった。その結果、「使ってみる」→「できる」→「指導できる」と意識が変容したと考えられる。

<課題>

1 情報活用能力の育成について

「情報化プラン【資料①】情報活用能力」における課題

- ▲豊田市内全体での、系統的・継続的な指導が十分にできていない。
- ▲発達段階ごとに、どのような情報活用能力を育成すればよいか、具体的な児童・生徒の姿で共有できていない。

2 教員のＩＣＴ活用指導力の向上について

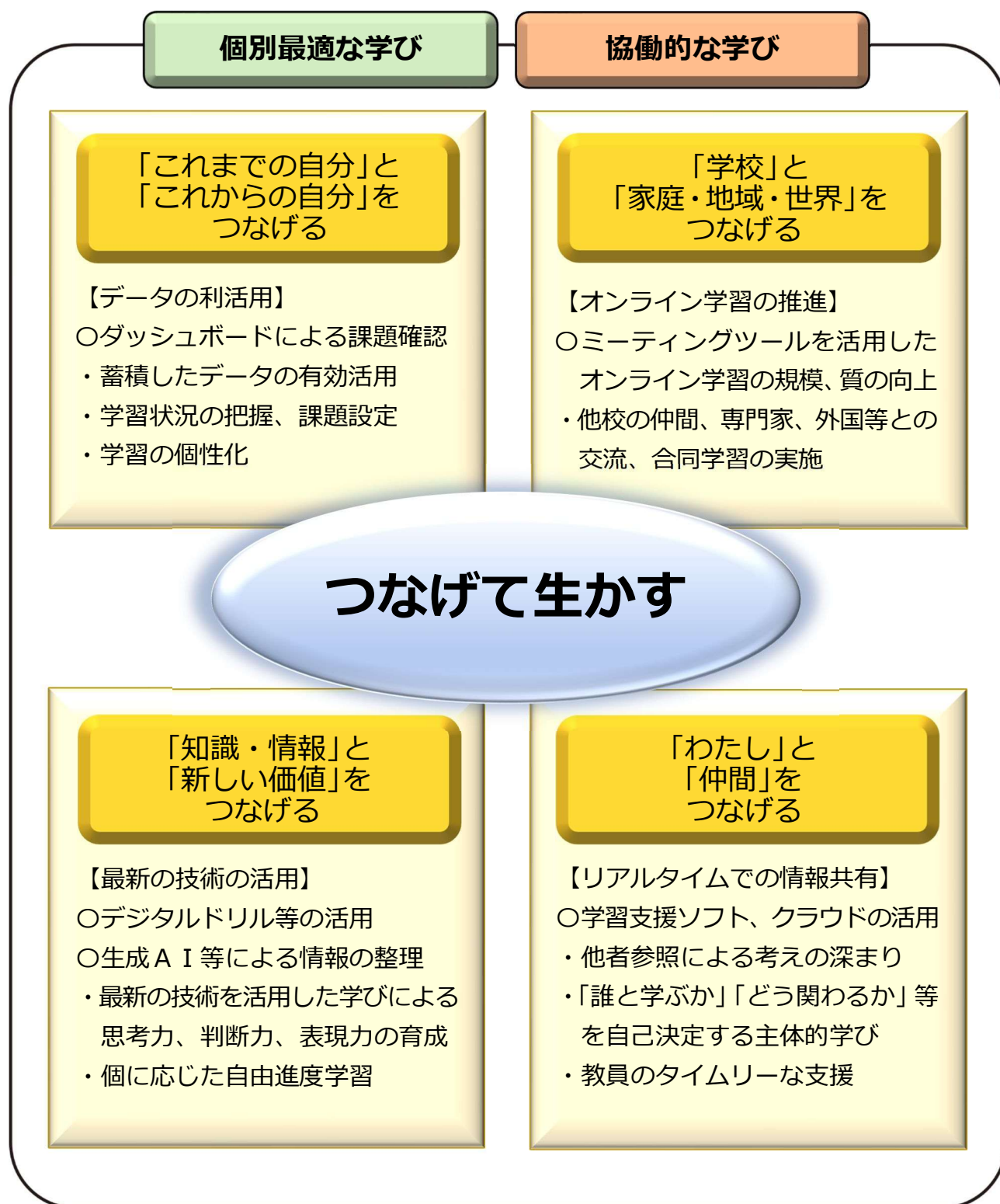
教員のＩＣＴ活用に関する技能について、現状は教員によって格差があるため、全ての教員が「共有し、学びを深める」というような具体的な方策を考えられるようなガイドとしての指標が必要であると考えられる。

3 校務ＤＸの推進について（出典：校務ＤＸチェックリスト 2024年度）

	項目	市	全国	差
1	長期休暇期間（夏休み等）の教職員の動静調査をクラウドサービスを用いて実施・管理していますか。	3.1%	36.1%	-33%
2	校内研修について、オンデマンド視聴を取り入れていますか。	26.8%	45.9%	-19.1%
3	教職員から学校へ提出する事務手続き資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか。	7.2%	24.1%	-16.9%
4	授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスを用いていますか。	32%	45.9%	-13.9%
5	業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付ける体制を整えていますか。	15.5%	27.9%	-12.4%
6	「ＦＡＸの利用が例外的に必要と考えられる業務」以外の日常の業務にＦＡＸを使用していますか。	88.7%	77.1%	-11.6%

- 豊田市内の教員及び児童生徒で、目指す情報活用能力の育成について共有するための指標が必要である。
- 授業改善及び業務改善に向けて、クラウドの有効活用を推進する必要がある。
- ＦＡＸの廃止やペーパーレス化を推進する必要がある。

4 目指す学習スタイル



- ◇ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化
- ◇「つなげる」対象を自己選択、自己決定する主体的な学び
- ◇さまざまなものを「つなげる」ことで、学び方を選択できる学習

5 ICT環境整備について

クラウド化を推進し、校務 DX 及び授業改善を進めるために、ネットワークの統合やセキュリティの強化などの環境整備を実施していく。

(1) 学習用タブレットの活用

- ・一人 1 台の学習用タブレットの導入により、デジタル教科書や学習支援ソフト、クラウドストレージなどのクラウドサービスを活用するとともに、個別最適化された学習環境を構築する。

機種	iPad (第 11 世代 A16)
OS	iPadOS
ストレージ	128GB
画面	11 インチ
カメラ	インカメラ/アウトカメラ
キーボード	ケース一体型



【学習用タブレット】



【キーボード一体型ケース】

<主な選択理由>

- ・ シンプルな操作性
- ・ 薄型軽量で優れた携帯性
- ・ 優れたバッテリーの持続時間
- ・ 素早い起動
- ・ OS の安定性と高セキュリティ
- ・ 豊富な学習用無料アプリ

(2) 高速大容量で安全な通信ネットワーク等の維持

- ・ デジタル教科書の利活用、動画等を含む WEB 閲覧など、増大する通信を安定的に実現するため、1Gbps～10Gbps の安全な高速大容量ネットワークを維持する。

●無線アクセスポイント

- ・ Wi-Fi 規格「IEEE 802.11ax」に対応
- ・ 5GHz 帯域で最大 4.8Gbps、2.4GHz 帯域で最大 575Mbps の通信速度を確保
- ・ 授業で使用する教室、体育館、職員室に設置



【教室前面上部に設置済】

(3) サーバとクラウドを利用したハイブリッドな運用

- ・ 機密性が高い情報の運用、利便性が高いクラウドサービス活用の双方を実現するため、オンプレミス※で構築したサーバとクラウドサービスを組み合わせたハイブリッドな運用を行う。

※オンプレミス:サーバやネットワーク機器をデータセンター等に設置し、自分たちで運用する形態

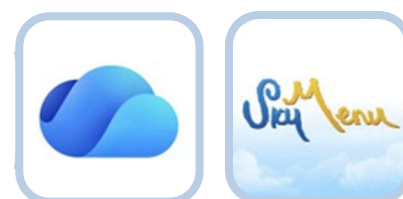
- ・ 児童生徒及び教員は、以下の 2 つのクラウドを使用する。

●OneDrive

- ・ 1 アカウントあたり 50GB の保存領域を確保

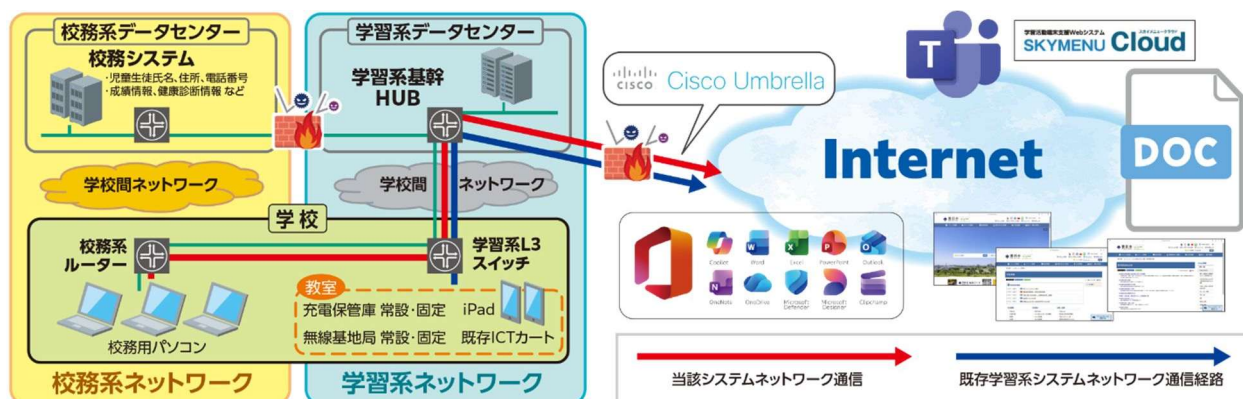
●SKYMENU Cloud

- ・ SKYMENU Cloud 使用時のデータを保存



(4) 校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合

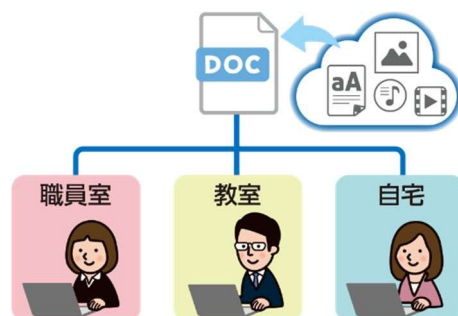
- ・学習用タブレットの運用を契機に構築した高速大容量ネットワークを生かし、これまで物理的に分離をしていた二つのネットワークの統合を 2024 年度に実施した。この仕組みを生かして、授業改善と業務改善を進めていく。



※ファイルサーバをオンプレミスからクラウドへ必要に応じて移行することにより、業務の効率化、利便性の向上を図る。

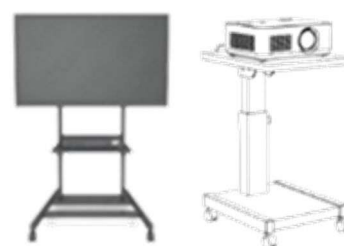
(5) クラウド活用と多要素認証による利便性の向上

- ・クラウド上にあるデータに、職員室だけでなく、自宅等外出先からもアクセスが可能になり、校務 DX の推進が期待できる。
- Microsoft Authenticator による多要素認証により、強固なセキュリティを担保しながら学校外からの校務支援システムへのアクセスを可能にしている。



(6) 大型提示装置の維持・更新

- ・「学校の I C T 環境整備 3 か年計画（2025～2027 年度）」に基づき、大型提示装置の整備を行う。「各普通教室 1 台、特別教室用として各学校に 6 台」の整備の実現に向けて、維持・更新を行う。2010 年度に整備した大型テレビの回収と廃棄を行うとともに、I C T カート等の大型提示装置の整備を随時実施していく。



(7) 教育ダッシュボードによるデータ利活用の推進

- ・教育に係るデータを一元的に管理し、必要な情報を判りやすく提示できる環境をつくることで、データやエビデンスに基づく教育活動を推進する。

※Evidence Based Education



E B E※に基づく
教育ダッシュボード



6 情報化プラン（2026～2030）の計画体系

目指す子ども像	目指す学校の在り方
つなげて生かす子ども	豊かな未来を切り拓く学校
○これまでの自分とこれからの自分を つなげて、夢を叶える子ども ○わたしと仲間をつなげて、比較・検討 し、共に未来を創り出す子ども ○学校と家庭、地域、世界をつなげて、 多様な考えを認め、豊かに生きる子ども ○知識・情報と知恵をつなげて、新たな 価値に気付き、発信する子ども	○子どもと教員が、多様な情報を収集・ 活用し、学ぶ楽しさを実感できる学校 ○子どもと教員が、情報を分析・活用し、 学びの質を高める学校 ○子どもと教員が、共有した情報を元に 課題解決に挑戦し、学びを生かす学校 ○子どもと教員が、学んだ情報を発信し、 学びをつなげる学校

重点事業①「子どもの情報 活用能力の育成」事業	重点事業②「I C Tを活用し た教員の授業改善の推進」事業	重点事業③「教育D Xの推 進」事業
(1)子どもが必要とする情報 活用能力の系統的な指導 (2)子どもの情報活用能力の 到達度測定とフィードバック	(1)研修によるI C T活用 指導力の向上 (2)授業実践事例の蓄積と 活用	(1)先端技術の効果的な 活用の推進 (2)校務D Xの取組状況の 見直し

【資料①】情報活用能力指導体系表の活用

情報活用能力育成、授業改善、デジタル・シティズンシップ教育、プログラミング教育 等

基本取組
(1)デジタル・シティズンシップの育成及び、情報セキュリティ対策の充実
(2)特別な配慮を必要とする子どもへの対応
(3)計画的なI C T環境整備
(4)学校からの情報発信、地域や保護者との連携の推進
(5)ヘルプデスクとI C T支援員の安定的な運用
(6)子どもの安全を保障するための環境整備

7 重点事業

＜重点事業①＞	「子どもの情報活用能力の育成」事業
目標	I C T機器の基本的な操作技能の習得と、問題解決・探究における情報活用力の育成及び、デジタル・シティズンシップ教育を進めることに加え、生成A I等の先端技術の活用により、子どもが自分の興味関心に応じて主体的に学ぶ学校教育の推進が図られている。
成果指標	◆基本的な操作ができると考える子どもの割合 → 2030年 8割以上 ◆問題解決・探究においてI C Tを効果的に活用できると考える子どもの割合 → 2030年 8割以上 【出典：「情報活用能力指導体系表」に関する調査】
重点取組	（１）子どもが必要とする情報活用能力の系統的な指導 ・小、中学校9年間の指導体系表をもとに、領域・学年ごとに必要とする情報活用能力を具体的に示し、系統的・継続的な指導を行う。 【資料①】情報活用能力指導体系表 参照 （２）子どもの情報活用能力の到達度測定とフィードバック ・指導体系表の中から、必要な項目を選択し、年度ごとに到達度を確認する。測定結果を市内で共有し、指導に生かすことでバランスよく情報活用能力を育成する。

＜重点事業②＞	「I C Tを活用した教員の授業改善の推進」事業
目標	教員のI C T活用指導力・情報活用能力の向上と、学習支援のための教育データ活用能力の向上により、授業の質が向上し、子どもの学習が充実している。
成果指標	◆授業にI C Tを活用して指導できると考える教員の割合 2024年 小学校 85.4% → 2030年 90%以上 2024年 中学校 82.1% → 2030年 90%以上 【出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査】 ◆情報活用能力指導体系表を授業で活用した教員の割合 → 2030年 9割以上 【出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査】
重点取組	（１）研修による教員のI C T活用指導力の向上 ・汎用クラウドツールや学習支援ソフトの活用方法に加え、先端技術について学ぶことができる研修を、動画配信、eラーニング、集合等の最適な形態で実施する。 （２）授業実践事例の蓄積と活用 ・指導体系表の項目に応じた実践例を推進委員会や各校で作成し、クラウドを活用し、市内教員で共有できる仕組みをつくる。

＜重点事業③＞	「教育ＤＸの推進」事業
目標	校務ＤＸの推進により、業務改善に加え、学習指導及び生徒指導等の充実が図られている。
成果指標	◆校務ＤＸの推進により、多忙化解消が図られていると考える 教員の割合 → 2030年 8割以上 ◆校務ＤＸの推進により、生徒指導が充実していると考え 教員の割合 → 2030年 8割以上 【出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査】
重点取組	（１）校務ＤＸの取組状況の見直し ・教育ダッシュボード等の有効活用を進めながら、教育ＤＸロードマップ（デジタル庁等）の「12のやめることリスト」を推進し、教職員の負担を軽減し、生徒指導等の充実を図る。 【資料②】12のやめることリスト 参照 （２）先端技術の効果的な活用の推進 ・生成ＡＩ等の先端技術についての詳細を確認し、ガイドライン等を整え、校務での効果的な活用を推進する。



8 基本取組

(1) デジタル・シティズンシップの育成及び、情報セキュリティ対策の充実

- ・教職員、子ども、保護者それぞれに意識を高め、適切に情報を活用できるようにする。

①教職員

- ・eラーニング、集合研修、動画研修等を定期的実施し、豊田市教育情報セキュリティポリシーを踏まえ、ICT機器の効果的な活用方法及び正しい指導方法を身に付け、コンプライアンス意識を高めることができるようにする。
- ・情報セキュリティ監査を2030年までに全校を対象として実施し、学校における情報セキュリティ対策、教育情報資産の管理及び取扱いについて確認する。

②子ども

- ・【資料】①情報活用能力指導体系表に沿って、9年間で系統的にデジタル・シティズンシップ及び情報セキュリティに関する理解を促進していく。小学校1年生及び中学校1年生で「GIGAびらき」※を実施し、意識を高める。

※GIGAびらき：学習用タブレットの貸与式・特別授業等

③保護者

- ・ICT活用に対する理解を促進するために、保護者への情報提供を行い、家庭と連携してデジタル・シティズンシップを推進していく。

(2) 特別な配慮を必要とする子どもへの対応

- ・特別な配慮を必要とする子どもへの支援情報を、クラウド上で共有する仕組みをつくり、対応を充実させていく。
- ・効果的な支援につながる情報を収集し、市内の学校へ随時提供していく。

①障がいのある子ども

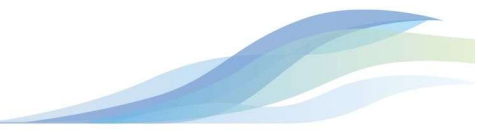
- ・学習用タブレットを活用した個別最適な学びを充実させる。特別支援学校との連携を図りながら、読み書き障がいの子への支援アプリの導入等、学習環境整備を進める。

②日本語指導が必要な子ども

- ・学習用タブレットのアプリを充実させるとともに、ことばの教室と連携したオンライン授業や、保護者とのオンライン説明会などの環境整備を進める。

③不登校・不登校傾向の子ども

- ・オンライン学習を行う体制づくりの充実等、ICTを活用して個に応じた対応を柔軟に行っていく。



(3) 計画的なICT環境整備

①大型提示装置の整備

- ・ICTカート等を計画的に整備し、普通教室及び特別教室での活用を推進する。今後は、新しい授業スタイルに対応できる環境を柔軟に整えていく。

②デジタル教材の充実

- ・学習者用デジタル教科書の活用推進及び、学習に有益なデジタル教材の選定と導入を計画的に進める。

③オンライン環境整備

- ・校内に大型提示装置等を設置し、学校同士をオンライン接続し、合同授業や交流等が柔軟に行える環境を整備する。

④次期GIGAスクール構想に向けた機器等の整備

- ・2030年以降の学習用端末更新等に向け、計画的に情報収集し、子どもの学習に最適な学習用端末の選定及びネットワーク機器の更新・整備に向けた準備を行う。
- ・校務用パソコンや校務支援システムについても、クラウドを活用した業務に対応する環境をハードとソフトの両面で計画的に整える。

(4) 学校からの情報発信、地域や保護者との連携の推進

- ・学校連絡網システム等のツールを活用し、データによる地域や保護者への情報発信を進める。
- ・学校ホームページについて、地域や保護者のニーズに合わせた形への見直しを含め、効果的な運用について検討していく。
- ・教職員に加え、子どもが地域や保護者に取組の成果や依頼事項、要望などを発信し、フィードバックをもらえるような仕組みを構築していく。

(5) ヘルプデスクとICT支援員の安定的な運用

- ・ヘルプデスクによる電話やオンラインによる学校支援体制を継続するとともに、各種申請や問い合わせをシステム化する支援ツール等を計画的に整えていく。
- ・ICT支援員による学校訪問及び、POTETOやQto等のシステムを活用した情報提供により、学校の情報化を推進する。

(6) 子どもの安全を保障するための環境整備

- ・フィルタリングやペアレンタルコントロール等による有害サイトへの接続制限を行う。
- ・ヘルプデスクによる閲覧履歴の確認や第三者からのアクセス制限を行う。
- ・デジタル機器を使用する際の留意点についての情報収集と対応及び指導を継続する。

【資料①】情報活用能力指導体系表

※2026年3月現在導入アプリを例として示しています。

※黄色の枠は「重点事業①」の成果指標です。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校
基本操作	○様々な文法での入力 ・ソフトウェアキーボードによる文字の入力 ・手書き入力 ・音声入力 ○コンピュータの基本操作 ・起動、終了を含めたソフトウェアの操作等	○キーボードによる入力 ・手書き入力 ・音声入力 ・ローマ字入力機能	○キーボードによる漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数値を含む文の入力	○キーボードによる漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数値を含む文の入力 ○キーボードで1分間に全角30文字程度の入力	○タッチタイピングによる漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数値を含む文の入力 ○キーボードで1分間に全角70文字程度の入力	○タッチタイピングによる漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数値を含む文の入力 ○ソフトウェアの機能やサイズなどの基本的な性質の把握 ○キーボードで1分間に全角80文字程度の入力	○タッチタイピングによる漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数値を含む文の入力 ○ソフトウェアの機能やサイズなどの基本的な性質の把握 ○キーボードで1分間に全角80文字程度の入力
検索・収集	○Safari等検索ツールを使用した簡単な検索 ○学習用タブレットからカメラ機能や音声メモなどデジタル機器を使った情報収集 ○OneDrive等を利用したデータ、情報のクラウド化の理解と活用	○Safari等検索ツールを使用した簡単な検索 ○学習用タブレットからカメラ機能や音声メモなどデジタル機器を使った情報収集 ○OneDrive等を利用したデータ、情報のクラウド化の理解と活用	○Safari等検索ツールを使用したデータ、情報、コンテンツの検索 ○Form等のツールや学習用タブレットからカメラ機能や音声メモなどデジタル機器を使った情報収集 ○OneDrive等を利用したデータ、情報のクラウド化の理解と活用	○Safari等検索ツールを使用したデータ、情報、コンテンツの検索 ○Form等のツールや学習用タブレットからカメラ機能や音声メモなどデジタル機器を使った情報収集 ○OneDrive等を利用したデータ、情報のクラウド化の理解と活用	○Form等のアンケートツールを活用した情報収集 ○情報のメディアからの情報収集の方法と情報の信頼性の理解し、情報を収集する	○Form等のアンケートツールを活用した情報収集 ○情報のメディアからの情報収集の方法と情報の信頼性の理解し、情報を収集する	○Form等のアンケートツールを活用した情報収集 ○情報のメディアからの情報収集の方法と情報の信頼性の理解し、情報を収集する
共有・協働	○Skype等の共有、協働ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作 ○簡単な画面におけるSkype等のデジタルツールを使用した共同作業 ○Teamsによるビデオ会議システムの操作、スラック等による意見表示	○Skype等の共有、協働ソフト、プレゼンテーションソフト、WordExcel等のワープロソフトの基本的な操作 ○簡単な画面におけるSkype等のデジタルツールを使用した共同作業 ○Teamsによるビデオ会議システムによる、音や動画メッセージの送信	○Skype等の共有、協働ソフト、プレゼンテーションソフト、WordExcel等のワープロソフトの基本的な操作 ○簡単な画面におけるSkype等のデジタルツールを使用した共同作業 ○Teamsによるビデオ会議システムによる、音や動画メッセージの送信	○Skype、Powerpoint等の共有、協働ソフト、プレゼンテーションソフト、WordExcel等のワープロソフトの基本的な操作 ○相手に応じた共有 ○簡単な画面におけるデジタルツールを使用した共同作業 ○Teamsのビデオ会議システムによる音や動画メッセージの送信 ○オンラインでのコミュニケーションでの情報発信方法の理解 ・プロでの投稿の仕方、コメント返信	○Skype、Powerpoint等の共有、協働ソフト、プレゼンテーションソフト、WordExcel等のワープロソフトの基本的な操作 ○相手に応じた共有 ○簡単な画面におけるデジタルツールを使用した共同作業 ○Teamsのビデオ会議システムによる音や動画メッセージの送信 ○オンラインでのコミュニケーションでの情報発信方法の理解 ・プロでの投稿の仕方、コメント返信	○Skype、Powerpoint等の共有、協働ソフト、プレゼンテーションソフト、WordExcel等のワープロソフトの基本的な操作 ○相手に応じた共有 ○簡単な画面におけるデジタルツールを使用した共同作業 ○Teamsのビデオ会議システムによる音や動画メッセージの送信 ○オンラインでのコミュニケーションでの情報発信方法の理解 ・プロでの投稿の仕方、コメント返信	○Skype、Powerpoint等の共有、協働ソフト、プレゼンテーションソフト、WordExcel等のワープロソフトの基本的な操作 ○相手に応じた共有 ○簡単な画面におけるデジタルツールを使用した共同作業 ○Teamsのビデオ会議システムによる音や動画メッセージの送信 ○オンラインでのコミュニケーションでの情報発信方法の理解 ・プロでの投稿の仕方、コメント返信
整理・分析	○Skype等ででの絵や図を用いた情報の整理 ○Skype等デジタル共有ツールを使用し、簡単な項目を整理して、比較したり分類したりすること	○Skype等ででの絵や図を用いた情報の整理 ○Skype等デジタル共有ツールを使用し、簡単な項目を整理して、比較したり分類したりすること ○WordExcel、Skype等を使用し、●などを並べて大きさを表すグラフを作成して、整理、分析すること	○Skype等ででの絵や図を用いた情報の整理 ○Skype等デジタル共有ツールを使用し、簡単な項目を整理して、比較したり分類したりすること ○WordExcel、Skype等を使用し、●などを並べて大きさを表すグラフを作成して、整理、分析すること	○Excel等ででの絵や図を用いた情報の整理 ○Skype等デジタル共有ツールを使用し、簡単な項目を整理して、比較したり分類したりすること ○WordExcel、Skype等を使用し、●などを並べて大きさを表すグラフを作成して、整理、分析すること	○Excel等ででの絵や図を用いた情報の整理 ○Skype等デジタル共有ツールを使用し、簡単な項目を整理して、比較したり分類したりすること ○WordExcel、Skype等を使用し、●などを並べて大きさを表すグラフを作成して、整理、分析すること	○Excel等ででの絵や図を用いた情報の整理 ○Skype等デジタル共有ツールを使用し、簡単な項目を整理して、比較したり分類したりすること ○WordExcel、Skype等を使用し、●などを並べて大きさを表すグラフを作成して、整理、分析すること	○Excel等ででの絵や図を用いた情報の整理 ○Skype等デジタル共有ツールを使用し、簡単な項目を整理して、比較したり分類したりすること ○WordExcel、Skype等を使用し、●などを並べて大きさを表すグラフを作成して、整理、分析すること
表現・発信	○Skype等のソフトウェアプレゼンテーション等による簡単なコンテンツ（音声・静止画・動画）の作成、編集	○Skype等のソフトウェアプレゼンテーション等による簡単なコンテンツ（音声・静止画・動画）の作成、編集	○Skype、Movie等による簡単なコンテンツ（音声・静止画・動画、文字等の組み合わせ）、キーボードによるローマ字入力でのテキスト作成、編集 ○各コンテンツの単独的な修正、削除、統合する方法	○Movie等による文字、静止画、動画を組み合わせた表現技法 ○目的に応じたWEBページ構成や公開の権限設定 ○ブログ記事投稿とコメント返信の方法 ○各種コンテンツや情報の信頼性の確認、修正、改良、統合する方法	○Movie等による文字、静止画、動画を組み合わせた表現技法 ○目的に応じたWEBページ構成や公開の権限設定 ○ブログ記事投稿とコメント返信の方法 ○各種コンテンツや情報の信頼性の確認、修正、改良、統合する方法	○Movie等による文字、静止画、動画を組み合わせた表現技法 ○目的に応じたWEBページ構成や公開の権限設定 ○ブログ記事投稿とコメント返信の方法 ○各種コンテンツや情報の信頼性の確認、修正、改良、統合する方法	○Movie等による文字、静止画、動画を組み合わせた表現技法 ○目的に応じたWEBページ構成や公開の権限設定 ○ブログ記事投稿とコメント返信の方法 ○各種コンテンツや情報の信頼性の確認、修正、改良、統合する方法
問題解決	○自分のデータやローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき
検索・収集	○身近なところから様々な情報を収集する方法を知る ・いろいろな人からの聞き取り ・観察、実験や見学先等でのメモの取り方 ・観察、実験の結果や得た情報を適切に記録すること	○身近なところから様々な情報を収集する方法を知る ・いろいろな人からの聞き取り ・観察、実験や見学先等でのメモの取り方 ・観察、実験の結果や得た情報を適切に記録すること	○調査等での基本的な情報収集の方法の理解 ・インタビューの仕方 ・観察、実験や見学先等でのメモの取り方 ・観察、実験の結果や得た情報を適切に記録すること	○調査等での基本的な情報収集の方法の理解 ・アンケート調査での流れ、やり方 ・比較を目的とした調査（実験・観察等）の条件設定の方法等 ・起こり得る場合を考える際に、落ちや思わぬなり得る方法等 ・観察、実験や見学先等でのメモの取り方 ・観察、実験の結果や得た情報を適切に記録すること	○調査等での基本的な情報収集の方法の理解 ・アンケート調査での流れ、やり方 ・比較を目的とした調査（実験・観察等）の条件設定の方法等 ・起こり得る場合を考える際に、落ちや思わぬなり得る方法等 ・観察、実験や見学先等でのメモの取り方 ・観察、実験の結果や得た情報を適切に記録すること	○調査等での基本的な情報収集の方法の理解 ・アンケート調査での流れ、やり方 ・比較を目的とした調査（実験・観察等）の条件設定の方法等 ・起こり得る場合を考える際に、落ちや思わぬなり得る方法等 ・観察、実験や見学先等でのメモの取り方 ・観察、実験の結果や得た情報を適切に記録すること	○調査等での基本的な情報収集の方法の理解 ・アンケート調査での流れ、やり方 ・比較を目的とした調査（実験・観察等）の条件設定の方法等 ・起こり得る場合を考える際に、落ちや思わぬなり得る方法等 ・観察、実験や見学先等でのメモの取り方 ・観察、実験の結果や得た情報を適切に記録すること
整理・分析	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用
表現・発信	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用	○情報を整理するための整理の方法 ・日本十進分類法 ・地域や地域記号の整理 ・図表や表などの整理 ・本体的整理法、目次や索引の活用
問題解決	○自分のデータやローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき	○問題解決におけるデータローカル保存場所の整理、できるようにしたことや気づき

※Qubenaについては、個別最適な学び及び共創的な学びを充実させるためのツールとして、導入時の課題把握、運用時の定着、結束までの等々に全ての学年で順次導入する。備前・自主学習・データ対策・教育情報の課題等への活用を期待して事例に実施する。

※SKYMENU Cloudについては、標準表示は「SkyMenu」と表記しています。

【資料①】情報活用能力指導体系表 <概略版> ※**青太字**は重点取組項目

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	中学校
③ デジタル・コミュニケーション	○ソフトウェアキーボードによる文字の入力 ○起動・終了等の操作	○補助ツールを活用したキーボードによるローマ字入力体験	○キーボードによる文の入力	○キーボードで 1 分間に全角 3 0 文字程度の入力	○キーボードで 1 分間に全角 7 0 文字程度の入力	○キーボードで 1 分間に全角 8 0 文字程度の入力 ○フォントの種類やサイズの変更	○キーボードで 1 分間に全角 8 0 文字以上の入力 ○キーボードを見ずに入力
	○インターネットでの音声を用いた簡単な検索 ○学習用タブレットのカメラ機能 ○ファイルを開く、保存する ○共有・協働ソフト等の基本的な操作 ○デジタルツールを活用した共同作業 ○ビデオ会議システムの操作、メッセージの送信	○インターネットでの簡単な検索 ○学習用タブレットのカメラ機能や音声メモ ○データ、情報へのアクセス方法 ○共有・協働ソフト等の基本的な操作 ○デジタルツールを活用した共同作業 ○ビデオ会議システムの操作、メッセージの送信	○情報、コンテンツの検索 ○学習用タブレットのカメラ機能や音声メモ ○データ、情報へのアクセス ○共有・協働ソフト等の基本的な操作 ○デジタルツールを活用した共同作業 ○ビデオ会議システムの操作、メッセージの送信 ○デジタルツールを活用して、意見を整理したり分析したりする ○表やグラフを用いて情報を整理する	○情報、コンテンツの検索 ○簡単なアンケートツールや学習用タブレットカメラ機能や音声メモ ○データ、情報へのアクセス ○共有・協働ソフト、プレゼンテーションソフト等の基本的な操作 ○相手に応じた共有設定 ○デジタルツールを活用した共同作業 ○ビデオ会議システムの操作、メッセージの送信	○アンケートツールを活用した情報収集 ○情報メディアからの情報収集、検証 ○協働的な学習におけるデジタルツールを活用した共同作業 ○ビデオ会議システムでの音声や動画メッセージの送信 ○文字・静止画・動画を組み合わせたコンテンツの作成	○アンケートツールを活用した情報収集 ○協働的な学習における目的に応じたデジタルツールの活用 ○ビデオ会議システムでの音声や動画メッセージの送信 ○目的に応じてグラフ等を整理し、情報の傾向と変化を捉える ○効果的に文字、静止画、動画を組み合わせたコンテンツの作成	○アンケートツールを効果的に活用した情報収集 ○協働的な学習における問題解決に向けたデジタルツールの活用 ○電子メール、ビデオ会議システムでの目的に応じた音声や動画メッセージの送信 ○オンラインでのコミュニティ等での情報発信方法の理解 ○文字、静止画、動画を組み合わせた印象的なコンテンツの作成 ○多面的・多角的な視点で問題を見つけ、解決する方法を創造的に設計する
	○データ保存や、アプリの活用等、自分のできるようになったことを見つける	○問題解決におけるテクノロジー活用 ○の大切さを理解する	○テクノロジー活用を振り返り、改善点を考える	○対象とする相手の視点で問題を見つけ、解決する方法を考える	○対象とする相手の視点で問題を見つけ、解決する方法を具体的なアプリや手順を示しながら考える	○対象とする相手の視点で問題を見つけ、さまざまな方法の中から解決する最適な方法を選択する	○対象とする相手の視点で問題を見つけ、解決する方法を創造的に設計する
	○いろいろな人からの聞き取りによって情報を収集する	○観察、実験、見学先等でのメモの取り方を知る	○インタビュの仕方や観察、実験の記録の取り方を理解する	○観察、実験の記録の取り方を理解する ○アンケート調査等での基本的な情報の集め方を知る。	○目的や意図に応じた情報の集め方を理解し、必要な情報を収集する。 ○落ちや偏りなく調べる。	○目的や意図に応じた情報の集め方を理解し、必要な情報を収集する。 ○落ちや偏りなく調べる。	○問題解決に向けた情報の集め方を理解し、必要な情報を収集する。 ○効率的に情報を収集する。
④ 教科等の内容に関連した項目	○ものの個数について簡単な絵や図で表す	○簡単な表やグラフを用いて情報を表す	○項目ごとの大小比較を棒グラフとして表す ○複数の棒グラフを組み合わせる	○表やグラフを用いて情報を整理する ・折れ線グラフ ・複数の棒グラフの組み合わせ ・簡単な円グラフや帯グラフ	○目的に応じて表やグラフを用いて情報を整理する ・割合、百分率、平均値の理解 ・円グラフや帯グラフなどの活用	○目的に応じて表やグラフを用いて情報を整理する ・平均値、中央値の意味や求め方 ・円グラフや帯グラフなどの活用	○目的に応じて表やグラフを用いて情報を整理する ・各種数値の意味や求め方 ・グラフや表などの活用
	○文字、数、絵等を使ってまとめて表現する方法を理解する	○文字、数、絵等を使ってまとめて表現する方法を理解する	○文字、表やグラフ、図形、画像等を使ってまとめて表現する方法を理解する ○自他の情報を組み合わせで表現する方法を理解する ○要約の仕方や出典の出し方を理解する	○文字、表やグラフ、図形、画像等を使って、まとめて表現する ○要約・引用の仕方や出典の出し方を理解する	○文字、静止画などを組み合わせて編集する ○白地図や年表、図表（グラフを含む）等に効果的にまとめる ○要約・引用の仕方や出典の出し方の理解	○文字、動画、静止画などメディアを組み合わせて編集する ○白地図や年表、図表（グラフを含む）等に効果的にまとめる ○要約・引用の仕方や出典の出し方の理解	○目的に応じて、情報を整理・統合する ○白地図や年表、図表（グラフを含む）等に効果的にまとめる ○要約・引用の仕方や出典の出し方の理解
	④ プログラミング	○与えられた手順を見て、既知の事象を分類できることに気づく ○一連の作業の流れを、細かく手順ごとに分解できることに気づく	○与えられた手順を見て、既知の事象を分類できることに気づく ○一連の作業の流れを、細かく手順ごとに分解できることに気づく	○単純な繰り返しなどを含んだプログラムを作成できる	○意識した処理を行うための最適なプログラムの作成、評価、改善 ・繰り返し、条件分岐、データや変数などを含んだプログラムの作成方法	○意識した処理を行うための最適なプログラムの作成、評価、改善 ・繰り返し、条件分岐、データや変数などを含んだプログラムの作成 ・センサーを使ったプログラムの作成	○意識した処理を行うための最適なプログラムの作成、評価、改善 ・繰り返し、条件分岐、データや変数などを含んだプログラムの作成 ・さまざまなセンサーを使ったプログラムの作成
	④ デジタル・デザイン	○コンテンツ利用時に敬意を払うことを理解する	○写真やビデオを編集するのは、様々な理由があることを理解する	○著作物には著作権があることの理解 ○引用元の書物や典拠などの示し方を理解する	○オンラインニュースページを読む際の注意事項を理解する	○インターネット上の誤った情報や誤解を招く情報、信頼できる情報を見分けることができる	○インターネット上の情報の真偽を適切に見分けることができる
⑤ デジタル・デザイン		○対面とオンラインとの違いを理解する	○オンラインでの意地悪な言葉に回答する方法を理解する	○ネットいじめに遭遇したときの行動の仕方を理解する	○ネットいじめに遭遇したときの行動の仕方を理解する	○ネットいじめに遭遇したときの行動の仕方を理解する	○ネットいじめに遭遇したときの行動の仕方を理解する
		○インターネットで様々な人がつながっていることを理解する	○オンラインのコミュニティでの約束やマナーについて理解する	○オンラインのコミュニティでの約束やマナーについて理解する	○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する	○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する	○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する
⑥ デジタル・デザイン	○テクノロジーを利用して不快になったときの対処方法を理解する	○デバイスを利用しない方がよい状況について理解する	○自分の行動が自分自身や他人に及ぼす影響について理解する	○自分のメディアバランスを見つけることができる	○情報メディアの利用による健康への影響について理解する	○情報メディアの利用による健康への影響について理解する	○情報メディアの利用による健康への影響について理解する

※Qubenaについては、個別最適な学び及び共働的な学びを充実させるためのツールとして、導入時の課題把握、展開時の定着、終末でのまとめ等に全ての学年で適切に活用する。自主学習・テスト対策・家庭学習の課題等計に画的に活用する。

【資料②】

12のやめることリスト（デジタルに変えること） ～教師が学習者に向き合う環境を実現するために～

デジタル完結・ワンスオンリーの徹底により、「デジタルの良さ」を実感しながら、**教職員の負担を大幅に軽減し、学習者に向き合う時間を確保することが取組の第一歩**である。そのため、12のやめること（デジタルに変えること）のリストを作成した。各教育委員会・学校において、積極的なデジタル化を進めることが期待される。政府としても、「校務DXダッシュボード」等を活用しながら、校務DXの実現に向けた取組を進めていく。

☐	① 電話等による児童生徒の欠席連絡等の受付
☐	② 紙での保護者への調査・アンケート
☐	③ 紙での各種調査票等の学校から保護者への配布・保護者から学校への回収
☐	④ 紙での教職員への調査・アンケート
☐	⑤ 新入学児童生徒の名簿情報の校務支援システムへの不必要な手入力
☐	⑥ 電話や書面による保護者との日程調整
☐	⑦ 職員会議等資料の紙での共有
☐	⑧ 紙での児童生徒への調査・アンケート
☐	⑨ 学校から保護者へ発信するお便り等の紙での配布
☐	⑩ 教職員が作成した教材等の各自での保存
☐	⑪ 学校徴収金の現金徴収
☐	⑫ 紙での学校内外の行事日程や特別教室等に係る利用予約等の管理

※なお、デジタル機器を有しない家庭への対応など、地域や学校の実情を踏まえ柔軟な対応を進めることが重要



近年、さまざまな分野で情報化が進んでいます。教育現場においても、ICTツールの活用による校務DXや授業改善が行われています。また、生成AI等に代表される新しい仕組みも導入され始めています。生成AIについては、学校教育での活用について賛否両論ありますが、教員の業務改善及び学習での活用が推奨されており、このような先端技術を積極的に生かしていく流れは、今後も加速していくことが予想されます。一方で、情報機器の誤った使用による大きな問題も発生しています。このような時代だからこそ、子どもから情報を遠ざけるのではなく、正しく理解し、自分自身のために生かすことのできる資質・能力の育成が求められているのです。その指針となるのが、本プランです。

冒頭で、これからの5年間で「目指す子ども像」とともに「目指す学校の在り方」を示しました。情報の適切な活用を通して、目指す姿の実現に向けた取組を推進していただくことを期待し、そのための具体的な方策についても、本プランの中で示しました。

今回策定したプランが、豊田市内全ての学校で子どもの情報活用能力を高めること、よりよい学校の実現に繋がることを願っています。

豊田市学校教育の情報化プラン策定専門委員会 委員長 安井 新弘

豊田市学校教育の情報化プラン策定専門委員会

氏 名	所 属 等	備 考
安井 新弘	豊田市立広川台小学校 校長 新しい学びのスタイル推進委員会 委員長	委員長
野間 寛	豊田市教育センター 所長	副委員長
市川 誠	豊田市立朝日丘中学校 教諭 新しい学びのスタイル推進委員（中学校代表）	
繁竹 洋輔	豊田市立美山小学校 教諭 新しい学びのスタイル推進委員（小学校代表）	
大江 香織	愛知教育大学 非常勤講師 株式会社ハイパーブレイン 常務取締役 CIE	

協力：新しい学びのスタイル推進委員会

2026年3月